

平成26年度 長浜統合新校設置懇話会 第1回会議 概要

1 日 時

平成26年5月26日(月) 17:30～19:30

2 場 所

県立長浜北高等学校 セミナーハウス

3 会議の内容

(1) 報告事項

- ・ 統合新校の校名選定について

(2) 意見を伺う事項

- ・ 統合新校の校歌、校章、制服の選定について
- ・ 統合新校での取組について

4 出席者

(1) 委 員

浅見 幸則 委員(長浜市立中学校 保護者)

北川 庸子 委員(長浜高等学校 学校評議員)

田中 智佐人 委員(長浜高等学校同窓会 前会長)

藤原 久美子 委員(長浜市企画部 部長)

吉田 豊 委員(長浜北高等学校同窓会 前会長)

* 岩崎 陽子 委員(長浜北高等学校 学校評議員)、宮腰 悦子 委員(児童文化活動支援グループ「すずめの学校」代表)は欠席

(2) 統合新校開設準備室

辻 浩一 長浜統合新校開設準備室長(長浜北高等学校長)

丸岡 修三 長浜統合新校開設準備室参事(長浜高等学校長)

森田 恭司 県教育委員会事務局学校支援課参事

5 主な意見

(1) 長浜統合新校の校名選定について

- 懇話会では意見を述べたものの、決めるのは県教育委員会であった。懇話会での意見は言いつばなしで、どう反映されるのかわからない。
- 懇話会に出席している以上、決まったことをPTA、同窓会、後援会役員に説明する義務がある。

- 校名決定の手法、新校の位置付けがしっかり見えていない。しっかり議論していないから同窓生や在校生にも説明できない。
- 既存の校名「長浜北」を付けられたが、教育理念、新校のビジョンがもっと議論されるべき。こうした議論がない中で校名が決められている。
- 「長浜高校」の名を残してほしいということではないが、新しい学校をつくる中で、新しい校名を付けることは当たり前ではないのか。
- 新校のコンセプトを提示して校名の公募を実施した。校名に、新校のコンセプトである英語教育を重視するなど、教育内容を校名に入れるのは難しい。校名選定までの手順は踏んでいるが、どのように考えているのか。
- 懇話会では既存の校名も含めた中で意見交換をしてもらえばよいとのことであったが、既存の校名は外して議論すべきだったと反省している。
- 教育理念は懇話会にもご意見を伺って決定している。議論していただいてから校名募集したはず。全く議論されていないということではない。
- 平成23年に示した再編計画原案から現在の再編計画としたとき、いろいろなご意見を踏まえ、具体的な新校のコンセプトを打ち出している。
- 長浜高校の関係者が校名の選定にいろいろと思いをもちおられるように感じたので、長浜高校の関係者に、校名が選定された経緯や理由についての説明会を、教育委員会で開いてもらうことを、懇話会から教育委員会にお願いすればどうか。
- 校名がどうということではない。両校のよりよい和ができるという実感ができれば良いし、地域に我々も素晴らしい学校ができるという説明ができる。
- 校名選定をやり直すということではなく、新校の校名が「長浜北」になったことを説明できるものが欲しい。この校名になった熱い思いを語ってほしい。そうすれば納得してもらえる。
- 校名そのものや、「北」という文字に意味付けするというのは難しい。
- 校名を白紙に戻すよう求めるつもりはない。納得できる選定理由をお願いする。
- 行政機関には意見を聞く場がいろいろある。審議会ではなく懇話会なので、ラフな形で意見を伺うという位置付けの会議であると理解している。リアルな意見を伝える必要があるが、会のあり方を理解しておく必要がある。

* 今回予定していた意見を伺う事項（「統合新校の校歌、校章、制服の選定について」「統合新校での取組について」）については、次回以降に意見を伺うこととなった。